

2 自然環境評価の進め方

自然環境の評価については、地域を被覆している植生は、それぞれの植物群落の種組成、構造及び分布が気候的要因、土地的要因、生物的要因といった環境要因の総合的作用の産物として把握され、各動物の存在や移動を保障している。さらに、丘陵地の自然景観も植生の構造や種類により支配されていると考えられることから、植生の評価が自然環境の評価に結びつくといえる。

従って、本調査では基本的には植生の評価により自然環境の評価を行うものとした。

また、その中で特に、貴重種、貴重な植物群落等の存在そのものにより絶対的に評価される対象については、別途取り上げた（図 5.2.1 参照）。

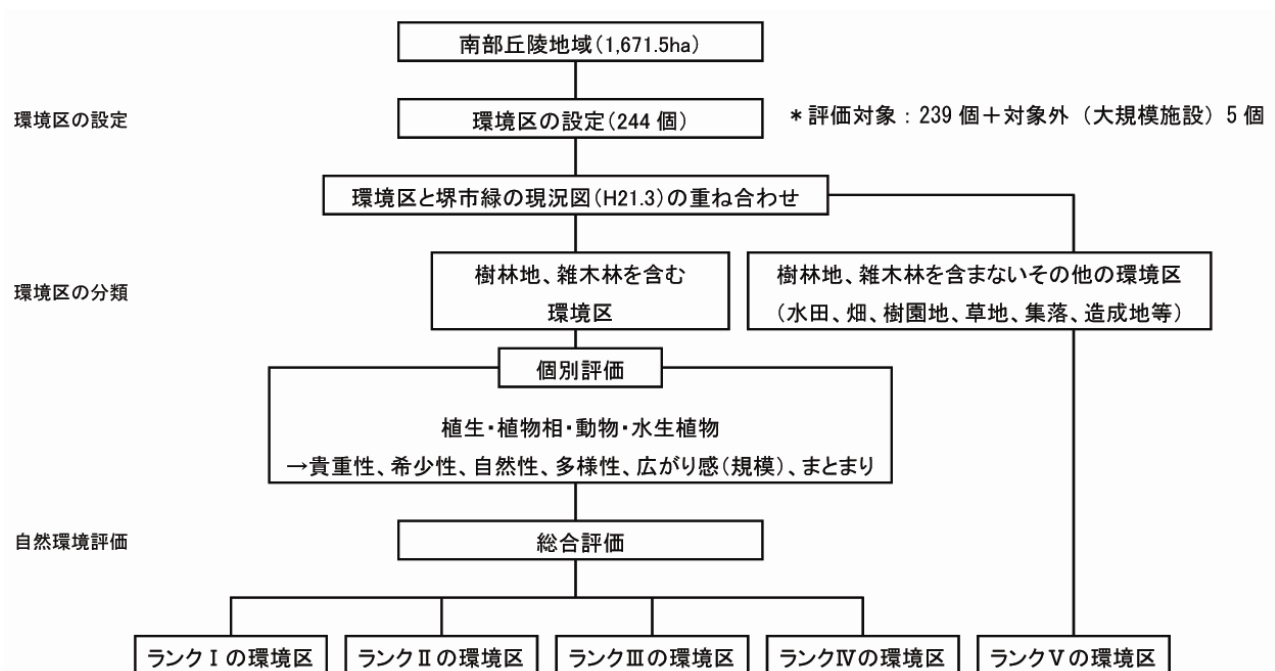


図 5.2.1 自然環境条件に基づく地域評価区分のフロー図

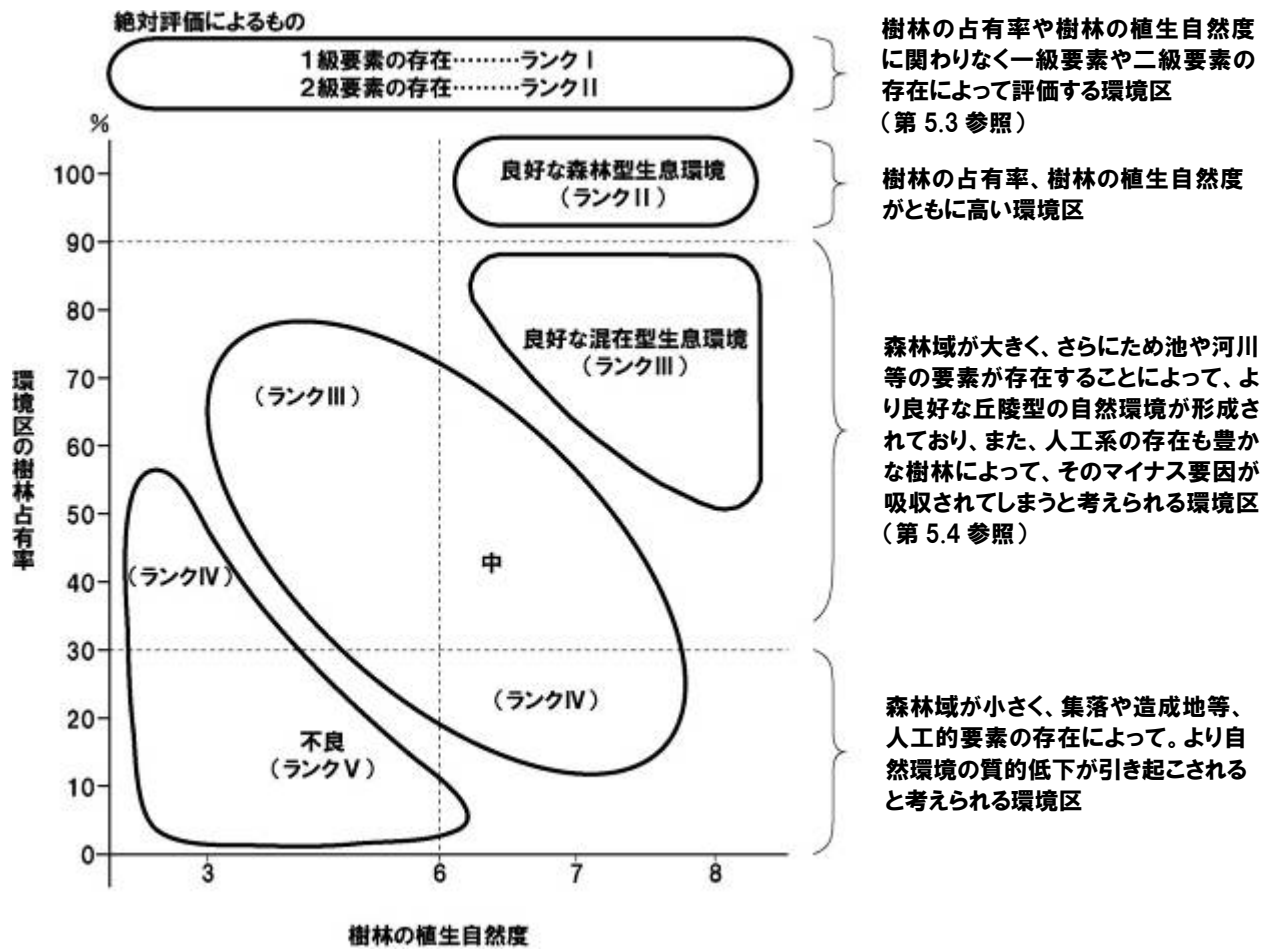
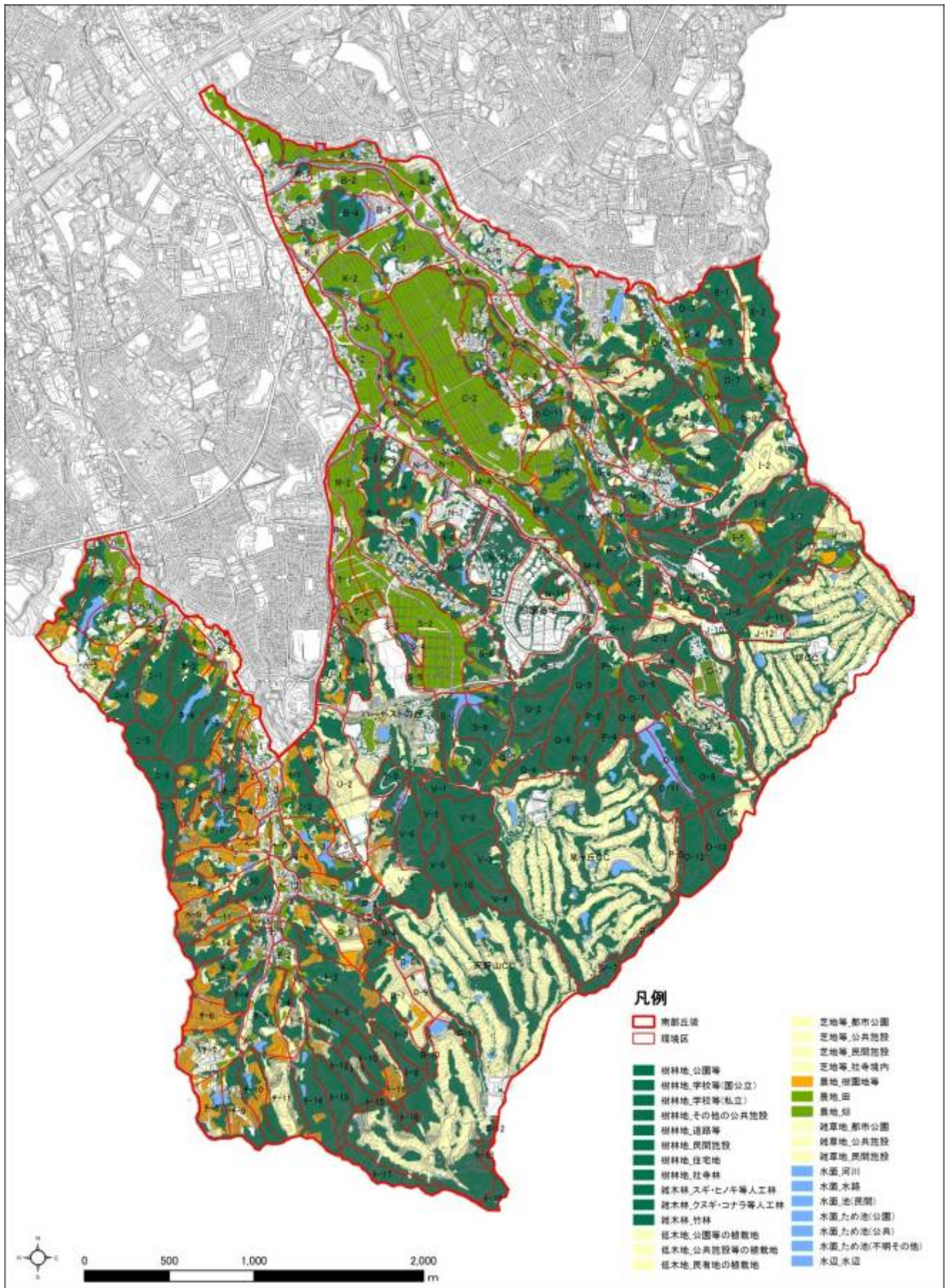


図 5.2.2 環境区の自然環境の評価概念図



資料：堺市緑の現況調査（平成20年度）

図 5.2.3 緑被地分布図

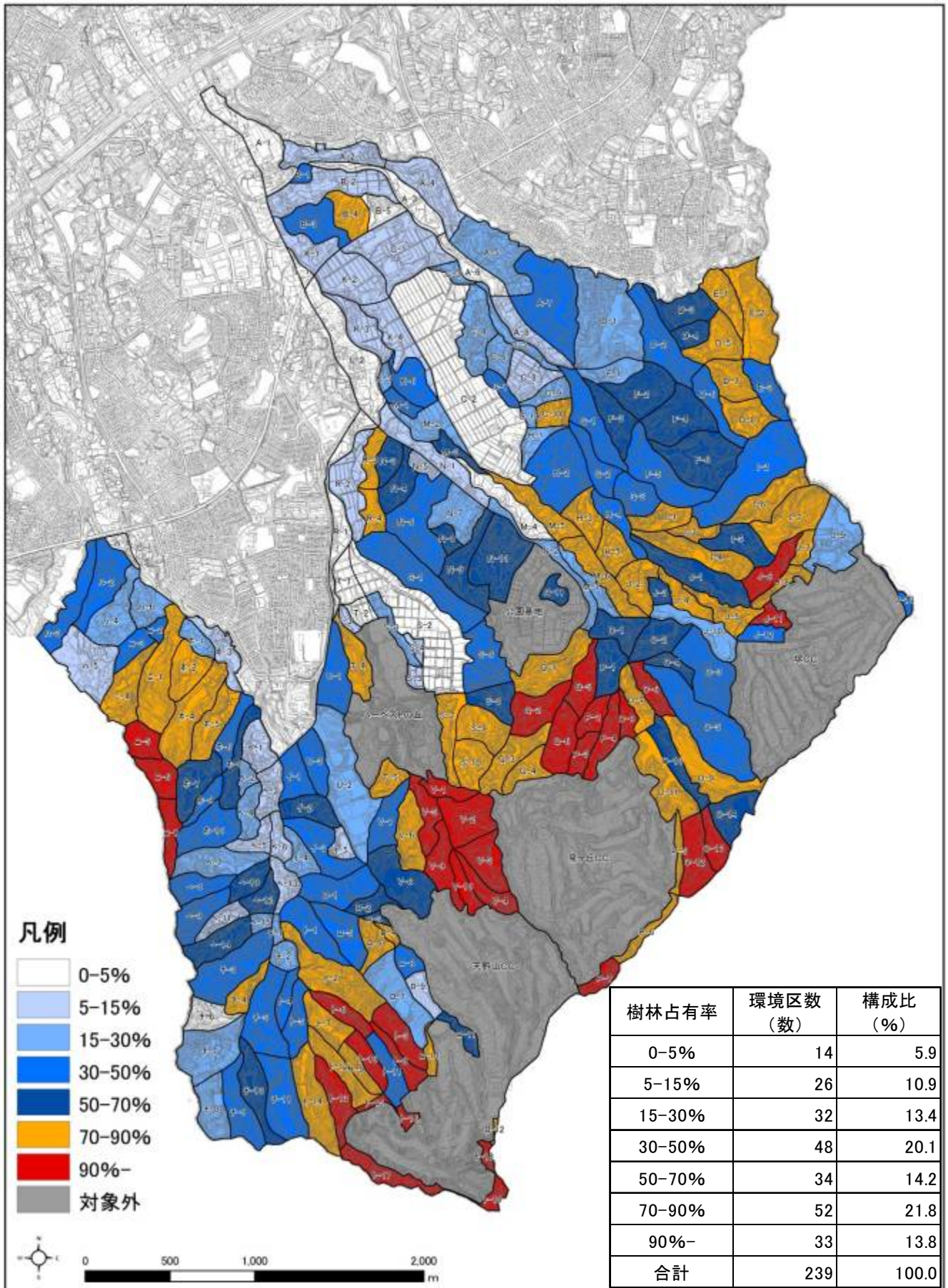


図 5.2.4 環境区における樹林占有率図（樹林地及び雑木林）